

○ 環境を通して行う教育の中の学び

① 生活・遊びの充実

【年少児】

2学期後半頃から、今まで一緒に遊ぶことがなかった友達と遊ぶなど、新しい人間関係が見え始めました。年長児にあこがれて一輪車に挑戦し続けたり、どろだんごづくりにじっくり向かったりする中で、ゆったりとした時間を過ごしています。「こうやってみたい?」と思いを伝え合う中で、イメージを共有し、ごっこ遊びの楽しさを互いに感じ合う姿もあります。もちろん、気の合う友達と一緒に遊ぶ中で、思いが伝わる嬉しさ、思いが伝わらないもどかしさを経験しています。これも協同性の育ちの過程として、その人らしさを大切に、ゆっくり丁寧に関わっています。



みんなで鬼退治!

【年中児】

仲間と互いに考えや思いを出し合いながら遊びを進めていく姿があります。ケンカも自分たちで解決しようと、解決後に「先生、ほく謝まったんや」と照れながら報告する表情には、自信が見えます。大きくなった自分を感じて、年長になることを楽しみにしている年中児です。

2月、年長児が小学校体験で留守の日、こっそり年長組(青組)に入り、「明日、私たちも青組体験をしよう!」と計画する姿がありました。次の日、なんと兄の青帽子や、青色のタオルなどを身に付けて登園する人がいました。青組にしかないビー玉コースや長いスカートを満喫し、片付けも完璧にできました。

年中児の後半、やりたいことなどを自分たちで相談しながら決められるようになり、それを形にしていける力が育っていることを嬉しく思っています。



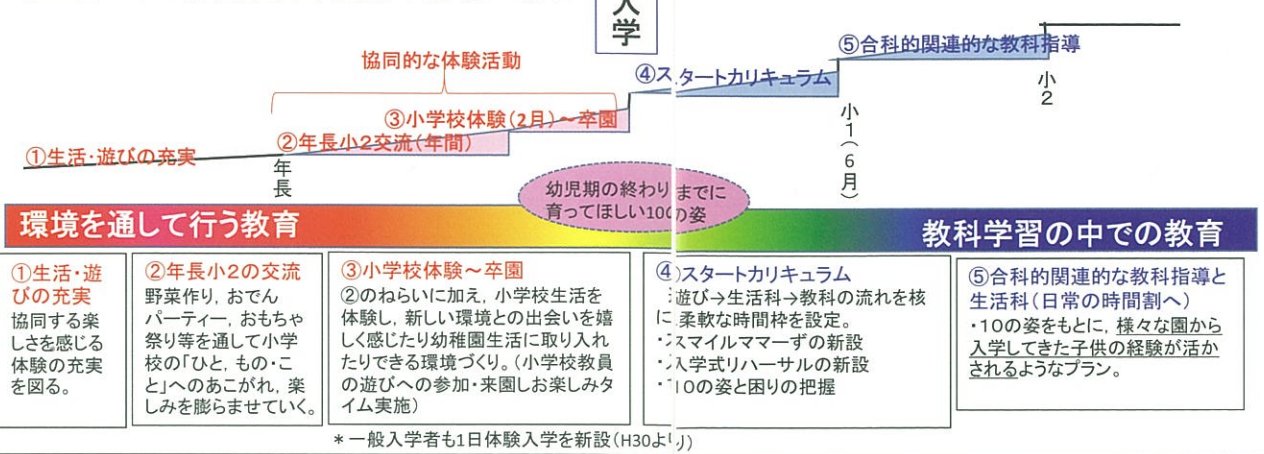
ビー玉コース面白い♪

香川大学教育学部 松本博雄准教授より

「学びをつなぐ」ことで期待されるのは、何より子供たち一人一人の学びの構えを豊かに育むことでしょう。園生活で多様な経験を重ねている幼稚園児に、小学校生活を楽しみに感じられる機会が提供されること。それは同時に小学生、そして幼小教職員にとっても、新たな発見と学びの芽となるかけがえのない場となるはずです。



学びをつなぐ附属坂出学園幼小接続の構想



③ 小学校体験

2月4日(火)からの3日間、附属幼稚園年長児30名が小学校にて体験入学を行いました。また、2月10日(月)の入学周知会の折には、一般入学予定者40名を含めた全70名の園児が1時間30分程度の体験入学を行いました。少しでも不安が軽減され、楽しみが増えればと願っています。

その一部を写真で紹介します。

(1) 2年生との交流(おもちゃの国へおいでよ)

2年生の手作りおもちゃを楽しみました。最初は説明を聞くことが多かったのですが、だんだんと夢中になり、「もう1回させて」などと、気持ちを表出させていました。難しいコース、簡単なコースと選択できるように工夫されており、どの子も構えることなく楽しめました。

最後には、2年生も一緒に楽しむ姿が多く見られました。年長さんのことを思いながら準備してきたことや一緒に楽しめたから、おもちゃの国がもっと楽しくなった等の感想が聞かれました。



① 教えてもらう



② やってみる



③ 一緒に楽しむ

(2) 算数の授業に挑戦

最終日には、小学校の先生の授業を受けました。とても張り切っている様子で、先生が教壇に立つと、席に座ったり、問いかけに対して一斉に挙手したり、花まるをもらってうれしそうにしたりと小学校への期待をふくらませていました。



① 先生が前に立つと



② 一斉に手を上げて



③ 花まるは格別



④ 終わりのあいさつも

④ 幼小合同研修会の様子

入学予定児童の体験入学に向けて、幼稚園と小学校の教員が集まって話し合う時間をもちました。まず幼小それぞれのねらいを確認した後、昨年度の取組を振り返りながら、今年度の活動について計画を立てていきました。以前は、小学生が幼稚園児におもてなしする活動になりがちでしたが、これまでの研修を通して、お互いにとって学びのある活動にすることが大切だと気づき、活動内容が少しずつ見直されてきています。幼小が意見交流をすることで、体験入学がよりよいものになるだけでなく、教員にとってはスタートカリキュラムや特別支援の視点からの研修の場にもなっています。例えば子供の見取り方や働きかけ等の幼小での違いや共通点を知ることは、子供理解につながります。小学校は入学児童が幼稚園でどんな学びをしてきたかを知り、幼稚園は小学校入学後の生活を知っておくことで、幼稚園と小学校で「つながり」を意識した子供たちとの関わりをしたいと考えています。今後も幼小でチームとなって、取り組んでいきたいと思っています。



よりよい小学校体験に向けて

○ 教科学習の中での教育へ

③ 小学校教員が来園して

小学校体験終了後から卒園までの間、小学校教員が来園して園児と一緒に遊んだり、幼小教員がコラボして小学校体験で学んだことを園生活に取り入れられるよう「小学校ごっこ」を計画したりしています。

2月10日は、小学校体験でなわとびや算数の授業を一緒にした低学年教諭が園児と遊ぶために来園しました。なわとびをしていた何名かの園児がさっそくやってきて「一緒にやろう、上手になりよるで」などと声を掛けてきます。

低学年教諭も小学校体験でしたことが引き続き、園での遊びの中に活かされ満面の笑みでなわとびを楽しみました。園児の思いに触れたり、幼稚園の教員から園児の行動の背景を聞いたりすることにより、幼小連携の重要性を実感しています。

幼小教員のコラボ「小学校ごっこ」は次年度1学期号で報告します。



先生 上手やな 僕も私も

(3) 給食は「わんこそぼ」方式で不安解消

「嫌いなものが食べられるかなあ」等、給食に不安をもつ園児は多いです。「わんこそぼ」方式で体験してみると不安も解消したようです(体験前は5名が不安、体験後は0名に改善)。少なく盛りつけ おかわりOK



(4) 一般入学者との合同の小学校体験

次年度最上級生となる5年生が「不安を解消してほしい」「小学校は楽しいところと感じてほしい」という願いを共有して企画・運営しました。一般入学者にも連絡進学者にも楽しんでもらい、満足感いっぱいでした。



① 違う幼稚園のお友達と



② 皆がなごむように